

平成 28 年度第 3 回労働者安全衛生対策部会（平成 28 年 12 月 7 日開催）での会議中議論について

	議論の内容	回答
1	今回の地震における作業員の避難についてしっかりと分析し、得た経験を活かして欲しい。（高坂原子力総括専門員）	○改善につなげて参りたい。（第 3 回本部会にて回答） ○平成 28 年度第 10 回福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会（平成 28 年 12 月 20 日）において以下を報告。 『2016 年 11 月 22 日午前 5 時 59 分頃に発生した福島県沖を震源とする地震及びこれに伴う津波を観測。福島第一・福島第二ともに、津波警報発令に伴い速やかに避難指示を行い、福島第一構内で作業をしていた全員が津波到達前に避難を完了。』
2	構内専用車両用について該当法規は無いのか。なければ社内の内部基準を示して欲しい。（河井原子力専門員）	・構内専用車両についての該当法規が無いことは確認済みであり、内部基準について詳細な取り決めがなされていないことから、構内専用車両に関する基本方針を策定し車両担当者会議で周知した。（平成 28 年 12 月 26 日）
3	原則全登録車両が点検対象なのか？「希望する」とは？どういう意味なのか？点検頻度、点検レベル、整備士の資格内訳、自賠責は有効なのか確認したい。（岡嶋委員、長谷川委員）	・原則として全数点検対象としていたが、今後については故障等による不使用車については登録抹消手続きを行い点検対象から除くこととする。 ・「希望する」については、点検方法であり構内車両整備工場を利用または企業さまが自前で準備した整備士による点検があることから、当社で運営している構内専用車両整備工場の利用を「希望する」場合である。 ・点検レベル及び点検頻度については、1 2 ヶ月点検相当を 2 4 ヶ月点検に変更し 2 年に 1 度を目標としている。 ・整備士については、以下のとおり。 ○2 級整備士 4 名 ○3 級整備士 4 名 ・自賠責保険については車体番号にて加入できることから有効であることは確認済みである。
4	国交省からの指導内容を示して欲しい。（長谷川委員）	国交省（東北運輸局）からは、協力会社と連携し、構内車両の運用管理を的確に行うこと、また、作業環境ならびに整備士確保状況が改善した場合、構内専用車両整備工場の認証取得を目指してほしいとされている。
5	（車両整備体制に関連して）交通安全（交通ルールや道路標識の設置等）について確認したい。（高坂原子力総括専門員）	企業共通のイントラに構内の交通ルール（MAP へ制限速度 40 Km・20 Km のエリアや一方通行箇所等を表示）を掲載。 変更がある場合は安推協議会にて周知しイントラの資料を修正。 構内は標識・道路上標記にて補完。
6	「重傷」等があった場合には、対策内容について資料を添付して欲しい。（高坂原子力総括専門員）	資料については、必要に応じ福島県と相談の上、作成する。
7	（災害発生状況について）「その他」の分析をしっかりとって欲しい。（石田委員、高坂原子力総括専門員）	今まで目が届かなかった部分があるかもしれないので、今後「その他」の中の内訳をしっかりと分析をして、必要な対策を展開してまいりたい。（第 3 回本部会にて回答）
8	（被ばく概況について）今後被ばく線量が大きくなることが予想されるので、線量の計画と実績がわかるような資料を示して欲しい。（大越委員）	今後もトピックスとなるような被ばくの多い作業に関しては、個別に資料を作成し、報告したい。（第 3 回本部会にて回答）
9	（被ばく概況について）1F の環境線量率低下について、資料に示して欲しい。（岡嶋委員）	フェーシング工事等で環境の線量が下がったことは以前ご説明したことがある。そのような大きな改善があった時には、きちんと評価して説明したい。（第 3 回本部会にて回答）
10	（富岡町より会議後質問） ・使用不能車両（廃棄車両）は何台あり、使用不能車の処分計画等は作成されているのか？ ・整備不良による事故は起きていないとのことだが、事故は起きていなくても、車両からの油漏れについては、以前より通報連絡がされている。 一般的に考えれば、整備が行われている車両であれば、そう簡単に油漏れを起こすとは考えにくいですが、 <u>油漏れの原因は何なのか？原因を把握しているのか？</u>	・現在使用不能車両の調査は完了している。なお、不使用車両の処分計画については、現在検討中である。 ・油漏れ等の事象につきましては、車両整備は実施するも、劣悪な環境下で使用されていたことによる車両の経年劣化によりボルト緩み等が発生しているものと考えている。当社としても点検時におけるボルト締付のダブルチェック及び運転前の点検等の対策は実施している。 （今まで使用してきた環境が一般的な状況とは異なり、点検できる頻度も少なかったことから、車両にガタがきている）